



第689号

「島のひろば」編集委員会電話 04992-2-8256

くらしの相談は共産党町議団へ

小池2-9318 山田2-3670
酒井090-4545-0032

共産党議員団 交通問題で町要請

去る2月21日、共産党大島町議団は交通問題で町長への要請を行いました。

かねてより地域の皆さんからお聞きしていた交通問題への要求を、どういう交通体系にしたらいのか、どんな方法があるのかなどを研究・検討してきたものをまとめ、要請したものです。

当日は、共産党からは山田・小池・酒井の3町議、町側は町長・副町長・政策推進課長・政策推進課担当係2名も出席し、3町議の要請に対し、熱心に聞き取ってくれました。

具体的なお返答はありませんが、今後につながる大事な要請になりました。なお、具体的な要請内容は下記の通りです

共産党が要請した各地区の交通体系

- 北部地区 ・新開A・B、都道、泉津山、泉津地区を1コースずつ日替わりで走るデマンドバス
- ・大島バスの路線バスはコース内乗降フリーにする
- 北の山地区 ・都道下(農免道路～ぶらっとはうす～佐々木商店)を往復するデマンドバス
- ・都道上(椿花ガーデン～浄水場～佐々木商店)を往復するデマンドバス
- ・ほほえみサービスを充実させる
- 元町地区 ・元町港～吉谷住宅～医療センター～家の上住宅～図書館を往復するデマンドバス
- 野増地区 ・ほほえみサービスを充実させる(都道上の細道でも入れるように)
- 南部地区 ・元町発～間伏～差木地村内町道～沖の根～波浮上の山を往復するデマンドバス
- ・上記のデマンドバスをさらに進化させAIを使って戸口から戸口へ走るデマンドバス
- ・大島バスで南部から乗り換えなしで出帆港(岡田港)まで行けるようにする

※どの地区でも交通体系ではないが、移動販売車が来てくれると助かるという声が多くそのことも町長に伝えました。

2025 夏参院選アンケート実施中

今夏は、6月に都議選、7月に参議院選があります。

そこで、共産党では、国や都の施策に対するご意見・ご要望を届ける運動を行っています。

かつて共産党では住民の皆さんからの声をもとに、シル

バーパスの実現、学校給食費の無償化、高校生までの医療費無料化などに取り組み、その実現に寄与してきました。

生活のこと、医療・福祉のこと、そして平和のことなど、声を上げていきましよう。

今回はその場で聞き取りしたり、後日党の議員に連絡して受け取りに行くなどの方法で実施しますのでよろしくご協力ください。



吉良よしよしの

大島訪問記②

昨年12月14・15日の吉良よし子参議院議員の大島訪問の様子をお伝えします。

町営牧場の次は、

花卉園芸で頑張る農家へ。温室の中で栽培の苦労だけでなく、花の育て方まで質問し聞き取りをしました。訪問の最後に奥様から「子どもを戦争に送りたくないから頑張っている」と言われ一同感激でした。



聞いてくれました。午後は開発センターで「吉良さんをかこむつどい」に参加。集まった60名を前に、自民党が少数与党となった国会の様子を

午前の最後は、メリアル公園へ。土砂災害で被災された方へ手を合わせました。ここへぜひというのは吉良さんの強い希望でした。なぜなら、あの年、初当選した吉良さんは災害直後に来島・視察し、最初の国会での質問が大島の土砂災害の救援問題だったからです。災害後の復興住民会議の活動など強く領きながら

め、給食費の無償化は吉良さんの国会質問から始まったこと、平和への願いなど多くのことを熱く語ってくれました。また、会場で出された質問にもていねいに答えられました。「国会がおもしろくてしかたがない」という吉良さんの言葉は今の国会の様子を表す印象的な言葉でした。

日本共産党大島町委員会以上の見解を発表しました。

3月議会一般質問

山田忠敬 議員

問 大島における交通

問題をごうしていくかということですが、2024年版交通白書の概要にはこんな文言があります。「地域公共交通は人口減少等による需要減や人手不足による供給減により、地域の移動サービスは危機的な状況にある。」とし、「分野に限らない地域の多様な関係者が連携した取り組み(共創)を推進し、地域交通のり・デザインを推進することが必要である」と述べています。

「分野に限らない」とつまり、交通関係の方々だけでなく幅広くということでしょう。「地域交通のり・デザインを推進する」とつまり、これまでにあった交通系も活かしながら新たな体系も考え実行していく、とごうして

う。

私は住民のサイドで考えますが、大島に求められる交通ということ、一つは小型のデマンドバス、もう一つは、2024年4月から導入された「自治体等が主導して地域の自家用車や一般ドライバーを活用する有償旅客運送の制度」つまり新たな形のライドシェアではないかと考え

ます。ということでは、まず、政策推進課長に伺います。①交通問題について昨年実証実験を行ったはずですが、その結果と評価はどんなものでしたか。②大島の公共交通であるバス・タクシの現在の状況についてどうお考えですか。③2024年版のライドシェアについて

て検討されましたか。大島で実現可能かどうかも含め、どうお考えですか。町長に伺います。

①観光地大島のバス・タクシーをどうしていくかということについて計画あるいはお考えが、あればお聞かせください。②新たな交通体系をどう作るかということについてライドシェアも含め、今後「共創」していくことを提案したいと思いますがいかがですか。

答 政策推進課長 実証実験は都が路線バスの無料運行として行い、現在アンケートの集約分析中です。バス・タクシーの現況はバスは高齢の方と通学、観光客の用に留まり乗車率も低く効率的ではなく、タクシーは観光客が主で島民の利用は限定的です。ライドシェアについては、タクシー不足を補完する制度ですが、不足が

起きていない場合にはタクシーの営業に悪影響を及ぼす可能性があります。公共ライドシェアは、タクシーが対応できない地域などには有効だと考えられ、大島においては交通需要を見極めながら交通協議会で検討していく必要があると考え

ます。答 町長 未陽者の移動手段は主にレンタカーになっており、観光地大島として来島者に、より利便性が高く、快適に島を楽しんでもらえるような交通体系ができるよう努力していきます。

新たな交通体系については分散型集落形態の大島で多くの課題がありますが、誰もがより快適で容易に移動できる新たな交通体系についてライドシェアも含め交通協議会で検討していくことも共創と考えます。